

4 一人一人の状況に応じた指導の充実

一人一人の子供の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を充実させていくことは、特定の生徒だけでなく、多くの生徒への支援へとつながります。



課題の明確化

- これまでの様子 ・ 他教科での様子 ・ 学級での様子 などの情報を集める。
- 生活面 ・ 学力面 など、課題がどこにあるのか明らかにする。

支援方法の検討

グループ活動の導入

- グループ内で役割分担をする。

評価方法の工夫

- ワークシートなどの1つの方法ではなく、複数の方法（ワークシートと発言など）で評価する。
- 評価規準を分かりやすく伝える。
- 振り返りシートなどで、「分からない」を生徒から上手に示させる。

教材・教具の工夫

原因	つまずきの原因になりやすい違いなど		つまずきへの対策例
	製作題材	ワークシート(説明書等)	
立体と平面	立体	平面	・ 立体模型の作成
色	カラー	白黒	・ カラープリントを配付 ・ カラー印刷をパウチし、机ごとに提示
大きさ	作品(実物)とプリント(説明書)の大きさが違う		・ 原寸、拡大模型 ・ 原寸大のプリント
手順	プリント(説明書)から手順がイメージできない		・ 製作手順の見本

その他の支援として…

- ・ 書画カメラの活用 ・ 動画の活用 ・ 成功見本 …

同じ支援でも、例えば…

- ・ 知識・技能の育成をする場面…丁寧な指導
- ・ 思考力、判断力、表現力等の育成をする場面…やり過ぎた指導

となる場合があります。ねらいに応じて適切な指導を考えることが大切です。

技術・家庭科【技術分野】における「主体的・対話的で深い学び」

1 深い学び 資質・能力を獲得する学び

深い学びによる授業改善のポイントは何か？



「技術による最適解」を求められるような力を育てられる題材を考えましょう。そのためには、題材終末の「社会の発展と技術」（「次の問題の解決の視点」）の場面から題材を組み立て、**題材を通して最適解を考えさせて**みましょう。



展開例（1年生）

○身に付けたい力

- ・ 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解する。
- ・ 技術を評価し、適切な選択について考えられる。

次の問題の解決の視点

題材終末の課題（社会の発展と技術）

○小学生に、本立てのつくり方を教えよう。
教えるのに適した工具は何だろうか？

工具の特徴や使用する人等の条件、作品の使用目的などから、自分なりの**最適解**を考えよう。



製作・制作・育成

製作後の課題

○「切断」が目的の工具を評価しよう。（両刃のこぎり・ジグソー・糸のこ盤…）

安全、コスト、作業効率などの視点で、**使う人、作る人の立場**で技術を評価しよう。

作品製作中、切断の場面で…

これまでの指導 ○教師「正確な曲線は、糸のこ盤を使って加工しなさい。」	これからの指導 ○教師「この場面では、どの工具を使うと一番正確に加工できるかな？」
---	---

※安全指導は必ず行います。その上でさらに考えさせます。



設計・計画

設計の場面で…

これまでの指導 ○教師「生活での課題を解決する、この作品をつくろう！」	これからの指導 ○教師「使う人、作る人の立場も踏まえて、生活での課題を解決する作品を考えよう！」
---	--

生活や社会を支える技術

既存の技術の理解
 ・技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを理解するとともに、技術の見方・考え方に気付く。

技術による問題の解決

課題の設定
 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、それに関する調査等に基づき、現状をさらに良くしたり、新しいものを生み出し、新しいものを生み出すために解決すべき課題を設定する。

設計・計画
 ・課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する。

製作・制作・育成
 ・解決活動（製作・制作・育成）を行う。

成果の評価
 ・解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する。

社会の発展と技術

次の問題の解決の視点
 ・技術についての概念の理解を深め、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択・管理・運用、改良、応用について考える。

新たな課題に、主体的に取り組む態度を育む学び

a.課題の設定

- 生徒が興味を持っていることを題材化する
例) 生物を育てる
- 地域の特産物を題材化する
例) 鎌倉野菜について考える
- 身近な生活を題材化する
例) 生活から課題を見付ける

(関心を持つ)

技術ミュージアムで、身の回りの技術に注目し、技術の見方・考え方に気付かせる



a.開発者の意図を読む

技術ミュージアムで、先人の知恵に注目し、グループで気付いた点を発表させる



自らの考えを明確にし、広げ深める学び

a.課題の設定

「もやっと」感を残して次回につなげる

振り返りシートを軸にした主体的な学びの指導の工夫

時間	主な学習活動	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体性
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ○練習を図をかき ○作品の設計を 	<ul style="list-style-type: none"> ○等角図と第三角法のかき方が分かる。 ○等角図と第三角法を正確にかける。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ○使用条件やどんな作品か ○作業工程を考 	

b.学習の見通し

本時で身に付ける力を明らかにする（ねらいの明確化）ことで、本時に身に付けたい力を確認させる

c.学習の振り返り

毎時間ではなく、身に付けさせたい力のまとまりごとに振り返らせることで、身に付いた力を確認させる

b.学習の見通し

今後の学習の流れを理解させ、見通しを持たせる

b.学習の見通し・c.振り返り

その他に、指導のねらいに応じて

- ・製作の目的やゴール
- ・身に付ける力の目標
- ・生活でどう活かすか
- ・迷った・悩んだこと
- ・作業中に出てきた課題の解決策
- ・写真の貼り付け
- ・「なぜならば…」で理由などを書かせてもよい

c.学習の振り返り

「分かったこと」だけでなく、「生活で生かせること」を気付かせるような発問をする

ワークシートの工夫

私はこれから、工具を選ぶとき、に気を付けて選びたい。

b.他者との対話

場面に応じた工具等の使い方を調べあうことで、技術を適切に活用する素地を養う



b.他者との対話

成果をまとめ発表させることで、技術を評価させる



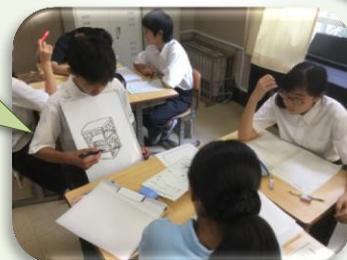
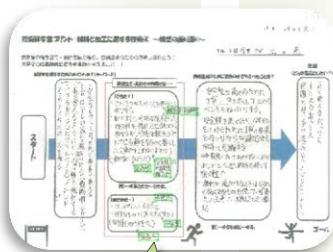
b.他者との対話

作業を振り返り発表させることで、考えを深めさせる



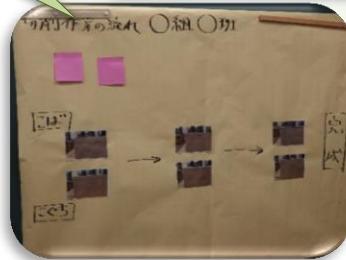
b.他者との対話

設計図を元に議論させることで、考えを広げ深めさせる



c.他者との協働

作業を協働で取り組ませることで、考えを広げ深めさせる



b.他者との対話

技術を三つの側面に整理させることで、考えを深めさせる

